

熊野研究の学生支援



熊野地方を研究する学生のサポートを始めた、県世界遺産センターの交流スペース（田辺市本宮町で）

県世界遺産センター

同行や人紹介

県世界遺産センター（田辺市本宮町）が、熊野地方を研究する学生をサポートしている。4月に開設した同センターの展示・交流スペースで職員が解説、必要に応じて現地への同行や人の紹介もする。すでに筑波大学院の世界遺産専攻の学生4人が利用したほか、京都大、大阪府立大の学生からも予約が入るなど、好評だ。

2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたから、地域の農村振興や観光戦略などを卒論のテーマに選び、熊野を訪れる学生が多くなった。県や田辺市本宮行政局への問い合わせもあり、その都度回答してきたが、窓口が一本化されていないため、学生が困惑する姿も見られたという。

こうした現状から、県は2004年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたから、地域や定義、「紀伊山地」の概要など、基礎的な部分を説明。必要に応じて、熊野古道に職員が同行して石畳の現状を紹介し、保全のために何が必要かなどを考えてもらう。希望があれば、地元の話り部なども紹介する。

当面は、訪れる学生が多い9月までの予定だが、年間を通じて実施する方針だ。

同センターの速水盛康主任は「意欲のある学生をサポートし、若い世代に世界遺産の価値を広め、保存への大きな力を育てていきたい」と話している。

向で検討中。支援体制を充実させることで、紀伊山地を研究する学生を増やし、正確な知識を身につけてもらい、ゆくゆくは、地域の魅力を伝える担い手となることを期待している。

平成19年8月21日付 読売新聞